JENESYS2.0

ＪＥＮＥＳＹＳ２．０
中国大学生訪日団第 11 陣
訪問日程　平成 26 年６月 17 日（火）～６月 24 日（火）

１　プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した中国大学生訪日団第 11 陣計 69 名が、６月 17 日から６月 24 日までの７泊８日の日程で来日しました。（団長：関立彤（カン・リットウ）中国日本友好協会秘書長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、東京都と石川県を訪問し、日本の大学生との交流の場を通じて、同世代との友好交流と相互理解を深めたほか、日本の教育に関するプログラムや政治・環境・防災・歴史等さまざまな視察、参観を通じ、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

２　日程

６月 17 日（火）
成田国際空港より入国、オリエンテーション

６月 18 日（水）
日本の教育に関する講義、東京学芸大学訪問・交流、歓迎会

６月 19 日（木）
石川県へ移動、石川県九谷焼美術館見学、日本折紙博物館見学、尼御前岬見学、
和風温泉旅館での日本文化体験

６月 20 日（金）
石川県教育委員会による講義、教育現場視察（石川県立金沢錦丘中学校・高等学校）、
金沢大学訪問・交流、金沢 21 世紀美術館見学

６月 21 日（土）
近江町市場見学、長町武家屋敷跡見学、兼六園見学、日本文化体験（茶道体験）
ひがし茶屋街見学

６月 22 日（日）
東京都へ移動、東京都水の科学館視察、商業施設視察

６月 23 日（月）
国会議事堂視察、池袋防災館視察、東京スカイツリー見学、歓送報告会

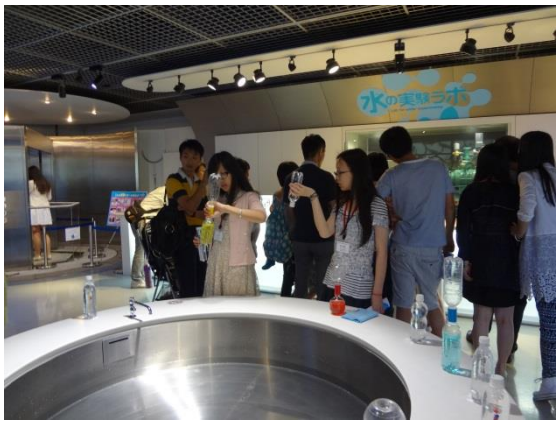
６月 24 日（火）
成田国際空港より帰国

３　写真

<table>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>6 月 18 日　小玉重夫東京大学大学院教育学研究科教授による講義（東京都）</td><td>6 月 18 日　小玉重夫教授による講義（東京都）</td></tr>
<tr><td>6 月 18 日　东京大学大学院教育学研究科 小玉重夫的讲座（东京都）</td><td>6 月 18 日　东京大学大学院教育学研究科 小玉重夫的讲座（东京都）</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>6 月 18 日　東京学芸大学訪問・交流（東京都）</td><td>6 月 18 日　東京学芸大学訪問・交流（東京都）</td></tr>
<tr><td>6 月 18 日　东京学艺大学访问交流（东京都）</td><td>6 月 18 日　东京学艺大学访问交流（东京都）</td></tr>
<tr><td>
</td><td> </td></tr>
<tr><td>6 月 18 日　歓迎会で挨拶する関立彤団長（東京都）</td><td>6 月 18 日　歓迎会で江田五月日中友好会館会長と交流する団員（東京都）</td></tr>
<tr><td>6 月 18 日　关立彤团长在欢迎会上致辞（东京都）</td><td>6 月 18 日　在欢迎会上与日中友好会馆会长江田五月畅谈的团员们（东京都）</td></tr>
</table>

6 月 19 日　石川県九谷焼美術館見学（石川県）	6 月 19 日　日本折紙博物館見学　（石川県）
6 月 19 日　参观石川县九谷烧美术馆（石川县）	6 月 19 日　参观日本折纸博物馆　（石川县）
6 月 20 日　石川県教育委員会による講義（石川県）	6 月 20 日　石川県教育委員会による講義（石川県）
6 月 20 日　石川县教育委员会讲座（石川县）	6 月 20 日　石川县教育委员会讲座（石川县）
6 月 20 日　教育現場視察（石川県立金沢錦丘中学校・高等学校）（石川県）	6 月 20 日　金沢大学訪問・交流　（石川県）
6 月 20 日　视察教育现场（石川县立金泽锦丘初・高中）（石川县）	6 月 20 日　金泽大学访问交流　（石川县）

6 月 20 日　金沢大学訪問・交流　（石川県）	6 月 20 日　金沢 21 世紀美術館見学　（石川県）
6 月 20 日　金泽大学访问交流　（石川县）	6 月 20 日　参观金泽 21 世紀美术馆　（石川县）
6 月 21 日　近江町市場見学　（石川県）	6 月 21 日　長町武家屋敷跡見学　（石川県）
6 月 21 日　参观近江町市场　（石川县）	6 月 21 日　参观长町武士家遗迹　（石川县）
6 月 21 日　兼六園見学　（石川県）	6 月 21 日　茶道体験　（石川県）
6 月 21 日　参观兼六园　（石川县）	6 月 21 日　体验茶道　（石川县）

	
6 月 21 日　ひがし茶屋街見学　（石川県）	6 月 22 日　東京都水の科学館視察　（東京都）
6 月 21 日　参观东茶屋街　（石川县）	6 月 22 日　考察东京都水科学馆　（东京都）
6 月 23 日　池袋防災館視察　（東京都）	6 月 23 日　国会議事堂視察　（東京都）
6 月 23 日　考察池袋防灾馆　（东京都）	6 月 23 日　考察国会议事堂　（東京都）
6 月 23 日　東京スカイツリー見学　（東京都）	6 月 23 日　歓送報告会 訪日成果報告（東京都）
6 月 23 日　参观东京晴空塔　（东京都）	6 月 23 日　欢送报告会 汇报访日成果（东京都）

４　参加者の感想

○　東アジアに位置する文化大国の日本を訪れ、さまざまな体験をし、いろいろなことを考えた。７日間の訪問で、伝統と現代、都会と地方の間を巡り、異なる風景を味わい、さまざまな感動を覚えた。日本社会の各方面に触れることで、日本という国、民族、文化に対して新しい発見が多々あった。

先ず、教育が広く普及し、基礎がしっかりしていることを知り、我が国でも国民の一般的教養を向上させることが当面の急務であると感じた。石川県立錦丘中学・高校の見学では基礎教育の規範化の必要性を学び、小玉重夫先生の講義では、日本の教育界における最先端理論を拝聴し、目が覚めた思いだった。また、金沢大学や東京学芸大学での交流を通し、日本の大学の良質な学習環境、開放的なキャンパスを見学し、感慨深かった。

日本国民は伝統文化の継承、発揚を重視し、文化の根源を大切にしている。そして公共施設や旅行資源とリンクさせることで、効率的に伝統文化を発信していた。文化と経済を調和させ、有効的に活用する手法は中国が学ぶべきだと感じた。伝統文化を深く掘り下げ、発揚することが経済発展と伝統文化の継承に非常に意義深い試みであることを知った。

また、日本人は独特の厳格さ、細やかさをもって人に相対し、礼儀正しく接してくれる。真面目に仕事に当たり、熱心で親切に困った人を助け、優しさを示してくれる。時間を厳守し、街中が清潔である点も驚いた。こうした国民の一般的教養も、一朝一夕に築かれたわけではないと思う。教育の重要さを改めて感じた。

○　日本に来る前には、食文化、茶道、華道、アニメそして自然の風景、また人々の日常生活などに対する興味と好奇心でいっぱいだった。今回の訪日活動は教育、政治、園芸、茶道、商業、経済、環境保護、防災、折り紙など広範囲に及ぶ内容で、日本や日本人に対して広く、奥深く理解をすることができた。

初日の印象は日本の清潔さだ。迎えのバスに乗ると、木目調のバスの床は非常に美しく、まるで新車のようだった。窓には塵一つなく、ある団員は車窓を鏡代わりにしていた。日本のドライバーさんは待機時間にバスの清掃を行い、特に窓拭きを怠らないため、こんなに綺麗なのだと随行の方から説明を受けた。どんな小さいことでも手抜きをせず、自分の全力を尽くし、良い成果を上げるという日本の皆さんの精神に大変感動した。日本人は自分に厳しく、生活や仕事に真面目に取り組んでいることがよく分かった。

日本人の一般的教養がなぜこんなに高いのか、それは教育と密接な関係があると思う。日本では小学生から道徳教育を開始し、良好な家庭環境、社会環境の中で良い影響を受けて育つ。日本の道徳教育では自己、他者、社会に貢献するよう教え、個人が社会に負う責任の重大さを説いているので、日本人は団体精神が強く、社会に対する貢献の念が強いのだと思った。また日本人は他人に迷惑をかけるのを嫌い、常に他者に対する配慮を怠らないので、国民の一般的教養が高いのだと思った。私は日本の教育に対して大きな興味を抱いたので、今後、機会があれば日本を再訪し、多くの体験や学習を積みたいと考えている。

○　今回の訪日では石川県の訪問が印象深い。ショッピングも、美しい風景も、美味しい郷土料理ももちろんよかったが、一番大きな収穫は日本人の大学生と連絡先を交換したことだ。真の意

味で日本の教育を理解するには、７日間は短過ぎる。もっと多くのデータや突っ込んだ交流が必要だと感じた。

次に日本の道徳教育に触れたことを挙げたい。さまざまな場面を通して日本人は自己を厳しく律する国民であることを知り、中国が学ぶべき点であると感じた。

今回、東京都水の科学館の見学を通して、日本政府が児童に対して熱心に道徳教育を実施していることも分かった。一粒の水滴になったつもりで水の生涯を学習させる手法を見て、水の偉大さや政府が浄水に多大な力を注いできたことがよく理解できた。こうして日本の子供たちは安心して水道水を直接飲めることを知るのだろうが、中国人にとって生水を飲むのはやはり抵抗があった。

最後に小玉重夫教授の講義に感銘を受けた。「忘却の穴」の理論を拝聴したことで、現代社会において慣性が趨勢となることで、人々は趨勢を受け入れるのみで、自ら思考することを忘れてしまうのだとの考えに行き着いた。

訪日活動では多くの感想を抱いた。最後に「ありがとう」で終わりたいと思う。

○　訪日初日から日本のトイレには度肝を抜かれた。様々なスイッチに囲まれた至れり尽くせりの便器、暖房便座、水に流せるトイレットペーパー。中国のトイレとは大違いだ。次に驚いたのは、日本人の秩序を重んじる国民性だ。私たちが駅のベンチで休んでいると、後から来た人は、私たちも並んでいるのかと思ったらしく、順序よく後ろに並び始めた。私たちがベンチから離れると、やっと前に詰めて行った。レジでも順序よく並んで待っている。また道路は清潔で、基本的にゴミ箱は非常に少ない。都内には至る所に高層ビルがあるが、地方に行くとほとんど見かけないのも特徴的だった。日本人の生活リズムはスピーディーで、道行く人は忙しそうだった。学生は制服を着用し、小学生は帽子をかぶり、とても可愛らしかった。それから温泉や畳も印象深かった。浴衣は素敵だったが、歩幅を小さくしないと歩けず、草履をはくと更に歩くのが難しかった。食事は、日本料理、中華料理、西洋料理など頂いたが、日本料理は生ものや冷たい料理が多く、習慣の違いもあり、あまり多くは食べられなかった。こうして８日間の日程は綿密に計画されており、テレビやネットで得た情報を自ら体験することができた。

日本側の皆さんから歓待を受け、訪問先でも詳細な説明をして頂き、特別な旅を体験できた。皆さんに心から感謝を申し上げたい。私は日本語を専攻しているが、自分の日本語力や理解力の未熟さを痛感した。素晴らしい通訳の先生のパフォーマンスには敬服の極みだった。同時通訳は言語学習者の目指す最高峰であり、帰国してからも勉強を続け、日本語力の向上に励もうと思った。日本という国にどんどん惹かれていく。

また訪日の機会が訪れ、新たな日本の一面を見たいと切に願っている。

○　今回の訪日活動で最も印象深いのは、日本人の親切さ、細やかさ、気配りである。私は洗顔フォームを初日のホテルに置き忘れた。失くしたと諦めていた洗顔フォームが７日目の朝、随行の先生の手から渡された。その時の感動と驚きと恥ずかしさは今でも心から消えない。自分のうっかりで多くの方の手を煩わせたと思うと申し訳ない思いでいっぱいになった。しかし、この件を通して、日本人のおもてなしの心、国民の一般的教養の高さを知り、中国人が学ぶべきであると強く感じた。

中国の一部のネットで流れる両国の友好関係に水を差すような情報を、盲目的に、理性なく信じることの無いよう、帰国後、周りの人たちに伝えたい。実際の交流を通し、日本人は非常に友好的で国籍にとらわれず、また知り合いではなくても、困っている人には救いの手を差し伸べる、心の温かい人々であることが分かった。そして、日本は世界の自然環境や資源を積極的に保護している。リサイクル可能な環境に優しい素材を多用し、水、森林、土地、エネルギーなどの資源を有効活用しているのには感服した。

いかなる面においても相手のために最大限の力を尽くして下さる日本人の皆さんのおかげで、本当に心地よく過ごすことができた。

○　訪日活動を通して、日本人の皆さんが非常に友好的であることが分かった。訪問を終えバスに乗ると、どこでも関係者の皆さんが手を振って私たちを見送って下さった。また、日本人の時間厳守の考えは素晴らしい。約束の５分前までには到着し、他人の時間を無駄にしない。そして、日本人は個人のプライバシーを非常に重視しており、大学生は基本的にキャンパスの外に下宿し、自分の生活空間を有している。また、交通規則を順守し、きちんと横断歩道を渡るなど国民の一般的教養が高く、非常に好印象を持った。このように日本文化を体験し、友好的な日本の皆さんと触れ合えた。また防災、節水の概念も広く普及し、教育は特に進んでおり、科学館、美術館、防災館では幼少からの教育を重視しており、中国も学ぶべきであると感じた。帰国後は、日本人がとても友好的であること、日本の国家発展の様子、先進的な科学技術、中日両国友好関係の発展のために尽力していることを皆に伝えていきたい。

○　日本は随所が清潔で、空気も美味しく、日本人は礼儀正しく、親切だった。先進的な科学技術が普及し、体験したことの無い多くの経験を積むことができた。

また、日本人のおもてなしの心には大変感動した。そして、日本は地震多発国として、幼少時代から防災訓練を実施していることは我が国も学ぶべきであると感じた。

学校訪問では日本の青少年との交流を行い、教育に関するブリーフに参加し、日本が強大になったのは教育重視と密接な関係があることを理解した。学生の更なる発展のため、教育委員会や学校は積極的に改革を推進し、国家は各種人材の育成に絶え間なく取り組んでいる。学生は熱心で積極的に各種クラブ活動に参加し、サッカー、弓道、茶道などクラブ活動を通して自己の総合能力を高め、さらに社会に適した人材となるべく研鑽を積んでいる。

我が国も長期的な発展をめざし、積極的な教育改革を行い、社会の需要に合致した人材を育成し、さらには個人が希望する成長ができる社会作りをしていくべきだと感じた。

○　今回の訪問で新しい日本の顔を知った。歓迎会や九谷焼美術館・兼六園・長町武家屋敷跡の参観、金沢大学と東京学芸大学での交流、小玉重夫教授の講義などを通し、日本文化の特色や色彩が鮮明に脳裏に刻まれた。中でも印象深いのは日本人のきめ細やかさ、相手の立場で考える気配りだ。ホテルでは常にお客様が望むことを考えてサービスを提供していた。それが最も顕著に表れていたのがトイレだ。あるトイレでは脂取り紙まで備えてあり、便器のデザイン、消音や消臭の機能なども素晴らしかった。ショップや土産物店では、丁寧に価格ラベルを取り剥がし、美しく包装してくれた。また、街角でマスクをしている人を見かけ、空気のきれいな日本にマスク

の必要があるのか不思議だったが、随行の先生のお話だと、風邪を他人にうつさないための配慮だそうだ。

それから、省エネや防災意識の高さも素晴らしい。精細で高度な水処理、先進の科学技術により、水資源は豊かであるが、節水意識がしっかり普及していた。多くの施設がこうした概念に基づいて設計されており、土地の区画、ゴミの分類、トイレットペーパーやトイレ用の再生水などに如実に表れていた。日本は地震国であり、子供の頃から防災意識を啓発している。池袋の防災館で地震や火災の模擬体験をしたことで、災害が少し身近に感じられ、災害の姿を知ることで、未然に防止する意識が高まることを知った。

〇　訪日の第一印象は飛行機の窓から眼下に広がる整然と並んだ田んぼだ。一糸乱れず、何と規則正しい景色だろうと思った。到着後、さらに日本人の細やかさに驚いた。バスでは窓側と通路側でシートベルトの色が異なる。こうした配慮は滞在中、至る所で感じた。また、道行く人が自信に満ち、忙しそうに歩いている様子に目を見張った。最も印象に残ったのは、環境衛生の高さと、日本人の別れ際に手を振る習慣だ。日本人が如何に細かくゴミを分類して回収処理しているかを知り、私は信じられない思いだった。また、80 歳近いお爺さんが私たちの出発時、何度もお辞儀をしながら、私たちが見えなくなるまで手を振り続けてくれた様子には、感動のあまり熱いものがこみ上げて来た。

今回の訪問では多くを学び、多くを知り、日本という国が好きになった。帰国後、周りの皆に感想を話し、写真や動画を見せてあげようと思う。そして、日本人が友好的で親切であることを伝え、日本への旅行を勧めるつもりだ。私は機会があれば家族と富士山観光をし、そして日本や日本人を理解したい。

〇　数日間の訪問を終え、日本に対する考え方が大きく変わった。日本人の礼儀正しさには本当に感銘を受け、私たち訪日団は至る所で細やかな心配りで接して頂いた。初対面の方も向こうから挨拶をして下さり、お別れの時には私たちの乗ったバスが見えなくなるまで手を振り続けて下さった。こうした礼儀正しさに中国では接したことがなく、私はたちまち日本の皆さんが好きになった。中国に敵対心を抱く日本人もいると思うが、この数日間の交流を通して、ほとんどの日本の友人は友好的であり、私たち中国人と仲良く交流したいと希望していることが分かった。こうした経験を必ず中国の人々に伝え、異なる角度から日本を感じてもらい、できることなら日本を訪問してもらいたいと思う。自分自身で日本の生活、文化、サービスを体験すれば、彼らも必ずや日本人の礼儀正しさに感動すると信じている。中日両国の友好関係が今後ますます良い方向に進むよう祈りながら、私の感想文を終える。

〇　この７泊８日の日本訪問を通して、東京の華やかさを目の当たりすると共に、茶道、温泉、そして美味しいお弁当など日本の伝統的な文化にも触れることができた。また、私の専門である教育分野においても、日本の現状を理解することができた。その中でも最も印象深かったのは日本人の真面目さと細やかさだ。２日目の夜に、私たち４人は新宿まで大体の道順を聞いた後、地下鉄に乗った。しかし、日本語が分からず、方向音痴の私たちにとって、無事に目的地へ到着するのは至難の技だった。そこで、地下鉄の駅で道を尋ねると、誰もが優しく、丁寧に助けて下さ

った。何とあるお爺さん、お婆さんは私たちを出口まで連れて行って下さった。結局、異なる出口ではあったが、その優しさに感動した。そして日本のトイレ文化には舌を巻いた。授乳室やおむつ交換のできるベビールームを完備するトイレも多く、ティッシュペーパーを持参する必要は皆無で、人に優しい設計が至るところに凝らされていた。私が最も感銘を受けた日本人は、私たちの通訳を担当して下さった先生だ。全行程における通訳業務はもちろん、そのために多くの事前準備をして下さり、日常生活の些細なことまで気遣いをして下さった。これは教師としての姿であり、今後、幼稚園の先生となる私は、更に勉強して、子どもたちに良質な物事を教えていきたいと感じた。

〇　今回の訪日活動は私の大学生活の中でも最も色濃い思い出を残した。私は歴史学を専攻する学生だが、日本の基本的な情報は書籍、テレビなどのメディアから習得して来た。そこで、今回、日本がどんな様子なのかこの目で見てみたいと非常に興味を抱いていた。そして７泊８日の交流訪問でたくさんの思い出を刻むことになった。

先ず、石川県立錦丘中学・高校の教学理念と教学スタイルが印象深い。中国では真の意味での西洋的教学モデルは実施されていないが、ここではそれが既に根付いているようだった。週一回の道徳授業、定期的に行う防災訓練、リラックスした雰囲気の中で行われる授業、柔道や剣道の道場、放課後のクラブ活動など、中国の小学校、中学校では実施は不可能だと思われる内容が豊富にあった。一方、中国では勉強一本やりで、学生は受験勉強のために学習している状況で、各人の長所や天性を伸ばす教育は二の次になりがちだ。だが、総合的教養の向上やクラブ活動重視の日本式スタイルには、系統立った論理的学習に十分な時間を取れないデメリットもあると思い、両国それぞれの長所と短所があると感じた。

また、防災館を見学し、中国はかなり遅れていると思った。幼少時代から防災意識を教え込むことは非常に大切だ。防災館の係員からディズニーランドの職員が毎年 250 回も防災館で訓練に参加していると伺い、日本国民の防災意識の高さを思い知った。こうした知識や備えがあれば、実際に天災に見舞われた際の被害程度を極力抑えることができるだろう。

私は帰国後、日本人は友好的であること、物事にきめ細かな配慮で当たること、親切で礼儀正しい国民であること、おもてなしの心で迎えて下さったことを周りの人々に伝えたい。今回の訪日活動では多くの収穫を得ることができた。